

殖シテ七八万乃至十万余ニ上リ、竟ニカメハメハ王(布哇)八島ヲ征服シ  
 始メテ全島獨裁ノ君主トナリシ人ノ古邦土ハ舉ゲテ異境異種ノ民人ガ  
 專有ニ歸セシム、ハ、月、ワ、イ、キ、ハ、花、千、歲、其、光、ヲ、改、メ、ズ、其、香、ヲ、易、ハ  
 ザルモ、故主既ニ去テ、新人コレニ代リ、若シ夫レ安息日ハ夕、天主降誕節  
 ハ曉、車ヲ驅リテコレガ光ヲ賞シ、馬ニ跨リテコレガ香ヲ訪フモ、ハ、ハ、カ  
 ナカ種ハ故主人ニアラズシテ、獨リ印度歐羅巴種ハ財主ハミナラン、布  
 哇國ノ前途モ亦悲ムベキ哉、然レモ其悲ムベキモノ獨リ布哇國ノミナ  
 ランヤ、獨リ布哇國ノミナランヤ、噫。

或人曰ク、近時布哇群島内ニ散在セル日本移住民ハ本國ヨリ味噌醬油、  
 織物等ヲ取り寄スルモノアリ。獨リ是レノミナラズ、將來日本ト布哇ト  
 ノ間ニ貿易通商ヲ旺盛ナラシメントシ、宜シク米國ノ故例ニ倣ヒテ  
 交互條約ヲ調訂シ、日本ノ雜貨品ハ無税ニテ布哇ニ入リ、布哇ノ砂糖ハ

無税ニテ日本ニ入ラシムベシト、是レ實ニ某氏ノ獎說スルモノニシテ、  
 予輩ガ現ニ布哇ニテ傳聞シタル處ナリ。惟此議論ノ是非ハ予輩ノ與リ  
 知ラザル處ナリト雖モ、若シ夫レコレヲ實行セント欲セバ、宜シク布哇糖類  
 ガ我國ニ到來シテ臺灣糖類ト競争シ得ル乎ヲ緘カニ檢覈セザル可カ  
 ラズ、是レ固ヨリ尋常人士ノ熟知スル處ナリト雖モ、予輩カ更ニ檢覈セ  
 ントスルモノハ、我國大島琉球地方ノ糖業トノ關係是レナリ。

布哇糖類ガ無税ニテ我國ニ輸入シ、臺灣糖類ト競争シテコレヲ壓倒ス  
 ルモ可ナリ、然レモ予輩ノ獨リ憂慮ニ勝ヘザルモノハ、布哇糖ガ又我大  
 島琉球地方ノ糖業ヲ壓倒セントシ、是レナリ。固ヨリ廉價ナル砂糖ヲ輸入  
 シテ、我國人ガ一人モ多ク砂糖ヲ仕用スルノ便宜ト快樂トヲ得セシメ  
 ン、予輩ガ深ク希望スル處ナレトモ、是レガ爲メニ我國ニテ漸次發達  
 進暢セントスル製糖事業ニ幾多ノ障害ヲ附與セントシ、是レ恐ル、ナ

リ、人或ハコレヲ聞キ輒チ謂ハントス、大島、琉球、薩摩、四國地方ノ製糖事業ハ如何ニ旺盛ナレバトテ、コレガ爲メニ衣食スル人民ハ僅ニ二三拾万ニ過ヤザルベシ、此ノ二三拾万ノ人民ガ快樂ト便宜ト、是レヲ三千八百餘万人ガ廉價ナル砂糖ヲ仕用シ得ル處ノ快樂ト便宜トニ比較セバ、其輕重果シテ就レカト、予輩固ヨリ強ヒテ保護貿易說ヲ唱道スルモノニ非ラズト雖モ、唯今日ノ狀況ニテハ、我國内ニテ漸次發達進暢セントス、民間ノ事業ハ成ル可クハ、保護補助セシメテ希望スルモノアリ、予輩固ヨリ布哇糖類ト日本糖類ト價格ノ比較如何ニ到リテハコレヲ熟知セズト雖モ、一片ノ痴心コレヲ默々スルニ忍ビズ、是レ斯ク曉々スル所因ナリ、今更ニ大島糖業ニ關シ左ノ報告ヲ拔萃シテ、世人ガ參考ニ供セントス、鹿兒島縣下大嶋の糖業者は一昨十八年來の不捌にて次第に困迫に陥りたるより、昨十九年中同業の回復を圖らんとて政府へ十萬圓

の貸下けを願出で、既に聞届けられたるに依り、今回同地糖業者中に於て規約を設け、今後輸出する砂糖ハ大坂商船會社と特約を結び、専ら同會社の漁船を以て大島の名瀬港より積出すことに爲さんとして、本年(明治二十年)一月十三日同會社へ依頼したる由あるが、昨十九年は風害の爲め甘蔗は頗る不作にて近年にまさ少額の取入れなれば、隨て本年の輸出は昨十九年に比して凡二万千八百丁餘の減少あらんとの豫定されば、大坂地方にても輸入の減したるが爲めに價も次第に小堅き運ひに至り、目下百六十目一斤に付大島上四錢七厘、中四錢五厘、下四錢二厘位の取引直段あるか、昨十九年中產地より長崎及び大坂に積出したる總高を聞くに、徳の島より二万七千丁、惠良部より三万三千丁、此の二島は大島の屬島あり、池利より四千丁、イコモより四千丁、赤木名より四千丁、東古見より二千七百丁、注用より三千丁

にて合計六万七千五百丁ありしと。又今廿年に積出べき豫算額ハ、徳の島より一万八千丁、惠良部より一万八千丁、池利より二千丁、イコモより二千丁、赤木名より二千丁、東古見より千七百丁、注用より二千丁にして合計四万五千七百丁の豫算なりと。

○

草の屋の賤かたはこと百敷の、大宮人につけまほしけれ。

○布哇在留日本移住民。

同窓ノ友人福島武治氏、曩キニ布哇政府ノ招聘ニ應ジ移住人ノ監督官ヲ以テ、布哇群島中ノ「カワイ」島、ソフニ村ニ在リ。筑波艦ノ「ホノル」港ニ寄着スルヤ、予ニ書ヲ寄セテ久濶ノ情ヲ述べ、且曰ク、「ホノル」近傍ニハ日本移住民ノ在ルモノ無シ、足下若シ這輩カ現況ヲ視察セント欲セバ、宜シク「カワイ」島ニ來ル可シ、請フ東道ノ主人ヲラント。予乃ハチ十九年

九月十四日午后五時ヲ以テ、「カワイ」島行ノ汽船「イワラナイ」號ニ搭ズ。船客中ニ一日耳曼人アリ、「カワイ」島某製糖所ノ持主ニシテ、日本ノ移住民ヲ使備スルモノナリト。予乃ハチコレニ日本移住民ノ批評ヲ諮問シタルニ、輒チ曰ク「日本役夫ハ、或ル部分ニ酷ダ宜クシテ、或ル部分ニ酷ダ宜シカ、ラズト。蓋シ適切ノ批評ニシテ能ク穿テタル格言ナリト云フ可シ。下等船客中ニ一日本人アリ、其郷管ヲ問フニ東京ノ産ニシテ、今春此國ニ移住シ現職ハ料理人ナリト答ヘタリ。

「カワイ」島滞在中、山口縣ノ移住民中ニテ竊盜云々ニ關シ二人相鬭爭シ爲メニ一人ハ鐵槌ヲ以テ其額上ヲ打撃サレ、竟ニコレヲ福島氏ニ訴ヘタルノ訟ヲ聽キタルアリ。且這般移住民ニ關シ見聞スル處甚タ拗シトセズト雖モ、要スルニ其完全ナルモノハ布哇總領事安藤太郎氏ガ外務大臣閣下ニ具狀シタル報告書ニ過グルモノナシ。今其報告書中ヨリ

左ノ記事ヲ拔萃ス。

各耕地我ガ勞働者就業上ノ優劣如何。本官ノ巡見セシ勞働者ハ山口、廣島、福岡、熊本ノ四縣民ニシテ、其ノ内職業ヲ勉勵シテ雇主ノ満足ヲ得タル者ハ山口、廣島二縣ヲ以テ第一トス。而シテ其ノ間優劣ナキニ似タリト雖モ、潔癖アリテ節儉ナルハ山口縣民或ハ廣島縣民ニ一歩ヲ讓ルガ如シ。其所謂潔癖トハ家屋ノ灑掃、衣服ノ洗濯善ク行届キタルヲ云フ。怠惰ノ徒ハ勞働後横臥雜談、又ハ博奕、飲酒ニ耽リテ其ノ自用ヲ辨ズル能ハサル一般ノ弊風ナルガ故ニ、潔癖ハ其ノ勤勉ノ一端ヲ見ルニ足ルヘキモノトス。然レモ博奕ハ其ノ毒一般ニ蔓延シテ、各耕地之ナキハ殆ト稀ナリ。唯其ノ耽溺ノ淺深ニ由リテ妨害ノ自他ニ及ボスト、然ラサルトアルノミ。又熊本、福岡ノ者ニ至リテハ一般ノ比較上其勉強節儉固ヨリ山口、廣嶋二縣ノ下ニ出ヅト雖モ、概シテ純

粹ノ農夫ナルガ故ニ博奕ノ一事ヲ除ケバ、平生就業上ニ於テ雇主ヨリ苦情ヲ蒙ルコト先ヅ稀少ナリト謂フベシ。耕地博奕ノ甚シキニ至リテハ彼等連宵不眠身體疲勞スルヲ以テ尋常ノ動作ニモ堪ユル能ハズ、遂ニ疾病ニ陥ル者往々之アリ。且此ノ輩其ノ博友ヲラザル者ヲ敵視シ、害ヲ他人ニ加フル小少ナラズトス。然レモ近來ハ其巨魁ヲ嚴罰シ或ハ歸國セシメタルヨリ、風俗多少改良ニ赴キタルヲ覺ヘタリ。扱又移住民中今日猶怠惰放縱ヲ以テ嫌惡セラル、者ハ千葉、東京、神奈川ノ如キ都會ニ接近セル地方ノ縣民ナリ。此等ハ悉ク第一回渡航人ニ屬シテ人選最モ疎漏ナル分。此ノ間ニハ新聞記者ト自稱スルアリ、演舌家アリ、劍客ノ落魄者アリ、兵士アリテ就業以來虐使ノ苦情絶期ナク、而シテ其ノ訴狀ノ文章字體共ニ看ルニ足ルベキ者往々之アリ。此ノ輩ニシテ當耕地ノ對遇働作ヲ甘ニスベキ謂ナキニヨリ其ノ苦

情決シテ無理ナラズト信ス。故ニ移住民タル者ハ僻村ノ純農ニシテ  
 白米ハ一歲中祝日祭時ノ外食セザル如キ輩ニ限ルヘシ。此ノ如キ農  
 夫ナルキハ當地ノ勞働ヲ以テ決シテ難事トハ看做サルナリ。本官  
 巡回ノ際、第一回渡航ノ一農夫ニ就キ其ノ職業ノ難易ヲ質問セシニ  
 答テ曰ク、耕地ノ働作ハ概シテ日本ヨリ容易ナリ。今其ノ一二ノ證據  
 ナ掲ゲンニ、第一肥料ヲ用井ズ、各耕地共甘蔗ノ培養ハ多ク澆水ノ一  
 法ニ由ル。第二肩背ヲ勞セズ、耕地ノ運搬到處牛馬ヲ使用ス。第三日曜  
 日ノ休業アリ、第四夜業ナキ等是ナリ。然レモ蔗葉ヲ剝去スルト、勞働  
 定時間内休息スル能ハザルノ二事ハ當初不慣ノ輩ニ於テ言ベカラ  
 サルノ困難ヲ覺ユルナリ。蔗葉葎ノ如ク兩邊銳利ニシテ之ヲ剝去ス  
 ル時指掌ヲ刺傷スル甚シキヲ以テ、凡一月餘ハ兩手腫痛シテ用ニ堪  
 ヘザルヲ常トス。又故郷ニ在リテ勞働ノ定時ナク隨意ニ田間ニ休息

シ、喫烟或ハ雜談セシ風習ヲ直チニ一變セラル、ハ其苦辛又手痛ヨ  
 リモ甚シキ者アリ云々ト。蔗葉剝却ノ一事ハ暫ク置キ、我役夫ノ定時  
 間内間斷ナク働作スルニ苦シムノ一點ハ本官其ノ語ノ至極着實ナ  
 ルニ感嘆セリ。又一方ニ向ヒテ二三ノ縣民雜居スル一耕地ニ於テ其  
 ノ狀況ヲ觀ルニ、働作上甲縣ハ乙縣ト競ヒ、二回ノ新來ハ一回ノ先進  
 ト争ヒ、以テ雇主ノ満足ヲ博セントスルアリ。此等ハ決シテ他邦人ニ  
 未曾見ノ異質ナリト雇主等モ贊稱セリ。殊ニ彼等支那人ト一耕地ニ  
 働作スルキハ、翌日ノ疲勞ヲモ顧ミズ非常ノ勉力ヲ奮フニヨリ、或ル  
 耕地ノ如キハ單ニ多數ノ支那人獎勵ノ爲ニ日本人ヲ僱使スルアル  
 ニ至レリ。布哇公使曰ク、奮進ノ異質ヲ有シ耕事ニ機敏ナル日本人ニ  
 シテ加フルニ連續勞働ノ習慣ヲ以テセバ、世界無比ノ農夫タルベキ  
 ニ惜哉ト。此ノ語頗ル過稱ニ似タリト雖モ、又其實ナキニ非ザル可シ。

布哇群島中甘蔗耕作ノ地方ハ總計八拾五ヶ所、其ノ内我カ移住民ノ就業スル場所ハ四拾八箇所ニシテ、其ノ人員二千八百六拾人、即チ廣島、山口、熊本、福岡ノ四縣ヲ多數トシテ、滋賀、岡山、和歌山、東京、神奈川、千葉等ノ諸縣民ナリトス。本官赴任後各耕地移住民一般ノ狀況ヲ通察スルニ、苦情今猶存シテ雇者被雇者ノ間兎角ニ協和セザルモノアルハ第一回ノ渡航人ニシテ、即チ前條ニ記載スル如キ純農ニ非ザルノ輩ナリ。其ノ他第二回、第三回ノ渡航者ニ至リテハ、一般ニ善ク其業ニ從事シ目下先ヅ事情平穩ナリト謂フ可シ。抑モ當初勞働者ノ苦情起因スル所ヲ概言センニ、其ノ間千姿萬狀ノ情實アリト雖モ、要スルニ第一ハ我ガ人民海外ノ生活ニ暗ク、次ニ風土ニ忤レズ、又事業ニ熟セザル等ヨリ當初ハ事々物々艱難ナラザルハナク、殊ニ言語ニ通曉セザレハ主僕ノ間情意隨ヒテ壅塞シ、雇主ハ妄ニ不順怠惰ト唱へ、被雇

者ハ一概ニ殘虐無法ト訴フルニ至レリ。又各耕地ノ地主若クハ支配人ナル者ヲ見ルニ其ノ勞働者ヲ使役スルニ寛アリ、猛アリ、巧アリ、拙アリ、又其ノ地ニ氣候ノ温和ナルアリ、嚴烈ナルアリ、便ナルアリ、不便ナルアリ。而シテ第一回渡航人ノ内遊惰ニシテ虛弱ノ徒、不幸ニモ猛ニシテ拙ナル雇主ニ就キ、氣候嚴烈ニシテ不便ナル地方ニ分送セラレタルモノ少カラズ。是又苦情ノ一大原因タリシト篤信セリ。耕地ノ所有主ニシテ巨大ノ金額ヲ費シ雇入タル勞働者ノ事ナレバ、其ノ辨償ニ十分ナル使役ヲ爲スハ當然ノ理ニシテ、又彼等其ノ輩ニ對シテ慈愛恭敬ノ意ヲ表ス可キ情義モナケレバ、保護法律ノ如何ニヨリテハ中間虐使苛遇ノ形迹ヲ顯ハス者アルモ決シテ怪ムニ足ラサルヘシ。然ルニ今日ニ至リテハ我ガ移住民漸ク風土ニ慣レ事業ニ熟シ言話モ幾許カ通曉セシヨリ隨ヒテ主僕ノ間逐次ニ調和加フルニ新條

約締結以來ハ我ガ通辨醫師ノ各地ニ分遣セラレシヲ以テ彼等ノ便宜廣大ナル又昔日ノ比ニ非ストス。蓋シ各耕地ニ勞働スル移住民各種ノ中今日我ガ人民ノ如ク保護ノ周到ナルハ當地ニ於テ未曾有ト云フモ敢テ過言コハ非サル可シ。

隨意渡航人月給ノ二割五分ノ貯金 明治十八年四月以降、十九年三月迄貯金トシテ布哇國大藏省ヘ預入ノ總額ハ洋銀二萬五千百二十一弗六十仙ニシテ、此ノ利子四百二十九弗トス。但シ利子一箇年五分ノ割合ナリ。

隨意渡航人員縣名區別ハ左ノ如シ。

一第一回渡航人。(明治十八年一月)

總數九百四拾五人。(男女小兒共)

內譯。

四百二十人 山口縣。 二百二十二人 廣島縣。

二百十四人	神奈川縣	三十七人	岡山縣
二十二人	和歌山縣	十三人	三重縣
十一人	静岡縣	五人	滋賀縣
一人	宮城縣		

一第二回渡航人。(明治十八年六月)

總數九百八拾九人。(男女小兒共)

內譯。

三百九十九人	廣島縣	二百七十六人	熊本縣
百四十九人	福岡縣	十二人	神奈川縣
三十七人	新潟縣	八人	千葉縣
七十四人	滋賀縣	十人	群馬縣
三十三人	和歌山縣		

一第三回渡航人。(明治十九年二月)

總數九百二十六人。(男女小兒共)

内 譯

四百九十八 山口縣 三百五十八 廣島縣

三十六人 熊本縣 四十九人 同神奈川縣 寄留人

以テ日本移住民現狀ノ如何ヲ知ル可シ然レバ今日ノ情況ニテハ雇者ト被雇者トハ漸ク相調和スルノ傾向アリテ深ク余輩ガ思慮ヲ煩ハスニ足ラザルモノニ似タリ予輩ノ日本ニ在ルヤ各新聞紙ヲ閱讀シテ日本ノ移住民ガ布哇ニ在リテ虐使苛遇到ラザル無キヲ知リ心私ニ憤悶ニ禁ヘズ一度布哇ニ到リテコレヲ檢覈センコトヲ思意セリ而ルニ何ソツ圖ラン身親シク布哇ニ到リテ各移住民地ノ現況ヲ見聞スレバ一トナク二トナク悉ク豫想ノ外ニ出テ轉々人ヲシテ一見百聞ニ若カズハ感アラシメタリ蓋シ這般ノ謬聞虛報ハ移住民中ノ書生演說者等ノ手ニ出

テタルタルモノシテ這輩身軀憊弱資性懶惰文筆口舌ニ巧ニシテ労働使役ニ堪ヘズ時ニ或ハ監督者ノ呵責ヲ被フリ心私カニ不平ニ禁ヘズ竟ニ這般ノ造語ヲ以テ本邦ニ知告シタルモノナランカ固ヨリ這般ト雖モ時ニ或ハ悉ク造語ニ非ラズシテ間々正確ノ報告アルナラント雖モ要スルニ此輩ガ自己ノ不平ヲ訴ヘタルマデナレバ予輩ハ敢テ之ニ信ヲ措カザルナリ然レバ人アリ若シ布哇ニ移住民ヲ遣出スルハ利害ヲ諮フ者アレバ予輩ハ左ハ數件ヲ以テ其利益アルヲ獎說セントス。

(第一) 日本人民下等社會ガ其職業ニ就クヲ得ル。

日本ニテハ人口多クシテ事業尠ク隨テ下等社會ガ其職業ヲ得ルニ困ムコトアリ然レバ這輩ガ布哇ハ如キ勞力ハ賃銀高貴ナル箇處ニ移住シテ其衣食住ハ欠乏ヲ補充シ漸ク其得利ヲ儲蓄シテ新事業ヲ興起スルニ到レバ日本國ハ爲メニハ直接間接ハ利益アルモト云



ハ可シ且甲去リテ布哇ニ移住スレバ乙日本ニ在リテコレニ代リ甲ハ職業ヲ承ケ繼グコナラン且甲布哇ニ到リテ高貴ナル賃錢ヲ得テ漸ク生計上ニ餘綽ヲ生テ爲メニ本邦ノ物産ヲ取り寄セ盛ンコ之レヲ注文スルトトナレバ丙モ亦コレガ爲ニ新クニ職業ヲ得ルトナラシ即チ一人ノ移住者ハ三人ノ利益トナル都合ナリ是レ予輩ガ移住者ノ多カラントテ獎說スル所因ナリ。

因ニ云フ日本住移民ハ周年一日各拾時間宛午前六時ヨリ午后四時ニ到ル。勞働ス可キモノニシテ其給料ハ每一人一ヶ月銀貨九弗別ニ食料六弗ヲ仕給ス但シ日曜日并ニ布哇國ノ大祭日ハ休業トス。

(第二) 日本下等社會ニ規律的ノ勞働法ヲ開導スルヲ。勞働法ニ規律無ク時間ハ價值ヲ辨知セザルハ日本農工商社會ハ通弊ナリ。モ一ニテ曉しまつたら一服烟草をやらすかトハ是レ日本

農夫ハ套語ナリ西洋勞働ノ法ハ然ラズ規律ト時間トヲ確定シ蕭トノ順序ヲ紊サズ烟草喫飯ハ各其刻限ヲ定メ時間外ニコレヲ爲スヲ許ルサズ然レバ日本ノ移住民ハ當初コレニ慣レズコレニ習ハズ時ニ或ハコレガ爲メニ幾多ノ苦情ヲ醸シタリト雖モ近時ハ漸クコレニ熟シコレニ慣レ西洋勞働ノ法ニモ亦通曉スルニ到レリト云フ語ヲ易ヘテ謂ヘバ這輩ハ海外ニ到リテ西洋勞働法ヲ實地ニ演習シタルモノナリ然レバ這般ノ西洋勞働法ヲ演習シタル二千ノ役夫ガ三年ノ後漸ク其法ニ慣熟シテ本國ニ歸リ日本在來ノ勞役社會ノ間ニ交リテ其業ニ就カバ必ラズヤ這般勞役社會ニ絶大ニシテ且有益ナル變動ヲ附與スルナラン且後日我國有爲ノ事業家ガ這輩ヲ使雇スルニ至レバ自他ノ利益益シ尠少ナラザル可シ是レ予輩ガ布哇移住者ノ多カラントテ獎說スル所因ナリ。

第三 日本國ノ資本ヲ増殖スル

日本移住民が一昨十八年一月初メテ布哇ニ到リ各其業務ニ服セシヨリ爾來纔カニ二年ニ過キザルモ本邦ニ送附セシ金額ハ業既ニ拾万弗ニ上レリ且這輩ガ日本總領事ノ手ヲ經テ布哇政府ニ附托シタル預入金額モ亦數万弗ニ到レリ之ヲ要スルニ這般人民ハ日本國內ニテ衣服住ニ窮迫シ復々止ム可カラザルヲ以テ竟ニ布哇ニ移住シタルモノナリ而シテ其利得スル處ヲ儲藏スルヲ業既ニ斯クハ如シ語ヲ易ヘテ謂ヘバ這輩ハ日本ニテ博取ス可カラザル富貴ヲ布哇ニテ博取シタルモノニシテ即チ日本ノ資本ヲ増殖シタルモノナリ是レ亦予輩ガ布哇移住者ハ多カラントテ獎說スル所因ナリ

第四 日本下等人民ニ冒險進取ハ氣象ヲ涵養シ兼テ其知識ヲ増殖スル

一山一水ノ間ニ踟躕シテ海外移住ハ勇氣ニ乏ク其膽零極メテ矮少ニシテ險ヲ冒カン危ヲ蹈ムハ氣慨無キモノハ日本人民ハ短處ナリ然レバ此ハ短處ヲ矯正スルハ先ツ海外遠征ハ氣象ヲ涵養スルニアリ是レ亦予輩ガ布哇ニ移住民ヲ遣出スルハ議案ニ賛成スル所因ナリ

日本人民ハ又極メテ海外ノ事情ニ暗クコレヲ知悉スルモノ特ニ掛シ然レバ這輩ヲシテ海外ニ移住セシメ廣ク世界ノ事物ニ通曉セシム可キハコレ今日ハ急務ナリコレ亦予輩ガ布哇移住者ノ多カラントテ獎說スル所因ナリ  
以上ニ於テ予輩ハ吾國人ガ單ニ布哇ニ移住遷徙セハトテ獎說セシト雖モ予輩ガ常ニ銳意熱心ニ我國人ハ海外移住ヲ獎說スルモノハ獨リ布哇ハミニ限ルモハニ非ラザルナリ我同胞ノ海外到ル處ニ移住遷徙

セ○ン○ト○切○望○ス○ル○モ○ノ○ナ○リ○願○フ○ニ○我○日○本○ノ○人○口○ハ○歲○毎○ニ○四○拾○餘○万○ヲ○  
 増○殖○シ○今○ヨ○リ○五○十○年○ヲ○經○過○セ○バ○概○チ○二○千○百○餘○万○ノ○新○生○ヲ○産○出○ス○ル  
 ナ○ラ○ン○獨○リ○二○千○百○餘○万○ノ○ミ○止○ラ○ズ○人○類○ハ○猶○利○息○算○術○ハ○重○利○法○ハ  
 如○ク○ニ○増○殖○ス○ル○ヲ○以○テ○或○ハ○二○千○五○百○万○以○上○ノ○大○數○ニ○到○ル○ヤ○モ○知○ル○可  
 カ○ラ○ズ○即○チ○コ○レ○ニ○今○日○在○來○ノ○人○口○ヲ○加○フ○レ○バ○無○慮○六○千○貳○百○万○ナ○ラ○ン  
 ト○ス○是○レ○五○拾○年○後○ノ○日○本○人○口○ナ○リ○然○ル○ニ○日○本○國○土○ノ○面○積○ハ○僅○カ○ニ○貳  
 萬○五○千○方○里○ニ○過○キ○ザ○ル○可○シ○此○ノ○最○爾○タル○海○島○ヤ○豈○ニ○克○ク○六○千○貳○百○万  
 ノ○生○ヲ○衣○食○セ○シ○ム○ル○ヲ○得○ン○ヤ○否○コ○レ○ヲ○衣○食○セ○シ○ム○ル○ニ○足○ル○可○シ  
 ト○雖○モ○唯○勞○々○役○々○ト○シ○テ○朝○三○暮○四○ノ○生○計○ヲ○是○レ○營○ム○ニ○過○キ○ザ○ル○ヲ  
 ラ○ン○曷○ン○ゾ○最○大○ノ○快○樂○ト○幸○福○ト○ヲ○博○ス○ル○ヲ○得○シ○ヤ○之○ヲ○要○ス○ル○ニ○日  
 本○ノ○海○島○ハ○最○大○ノ○民○人○ガ○最○大○ノ○幸○福○ヲ○博○ス○ル○能○ハ○ザ○ル○モ○ノ○ト○斷○言○シ  
 テ○可○ナ○リ○是○レ○予○輩○ガ○銳○意○熱○心○ニ○我○同○胞○ノ○海○外○移○住○ヲ○獎○說○ス○ル○所○因○ナ

リ○加○之○我○同○胞○ガ○海○外○到○ル○處○ニ○移○住○散○在○シ○テ○生○業○ヲ○營○ミ○農○事○ニ○服○シ○食  
 足○リ○衣○厚○ク○漸○ク○ニ○シ○テ○藏○儲○ハ○生○ズ○ル○ア○レ○バ○其○日○常○仕○用○ス○ル○處○ノ○物○品  
 ヲ○本○邦○ニ○注○文○シ○コ○レ○ガ○供○給○ヲ○本○邦○ニ○仰○キ○兼○テ○本○邦○ト○脈○絡○ヲ○通○シ○身○外  
 國○ニ○在○ル○モ○心○内○國○ニ○在○ル○ガ○如○キ○モ○ハ○ニ○到○レ○バ○自○他○ノ○利○益○ス○ル○處○蓋○シ  
 尠○少○ニ○ア○ラ○ザ○ル○可○シ○正○ニ○是○レ

“True patriots, we are sure,  
 Who left the country for country's good”

予○輩○每○ニ○英○國○ノ○軍○艦○ガ○煤○煙○ヲ○薰○ラ○シ○國○旗○ヲ○海○風○ニ○翻○ヘ○シ○テ○宇○内○到○ル  
 處○ノ○港○灣○ニ○入○リ○來○レ○バ○所○在○ノ○英○國○移○住○民○ハ○盛○粧○炫○服○シ○テ○或○ハ○馬○ニ○跨  
 リ○車○ヲ○驅○リ○テ○誠○實○熱○心○ニ○コ○レ○ガ○好○來○ヲ○迎○フ○ル○ノ○狀○況○ヲ○目○擊○シ○心○私○ニ  
 癢○痒○ニ○勝○ヘ○ザ○ル○處○ア○リ○然○レ○モ○予○輩○ハ○兼○併○主○義○ヲ○懷○抱○ス○ル○モ○ハ○ニ○非○ラ  
 ズ○植○民○政○畧○ヲ○唱○道○ス○ル○モ○ノ○ニ○非○ラ○ズ○唯○海○外○到○ル○處○ニ○我○同○胞○ノ○移○住○散  
 在○シ○テ○商○業○ヲ○營○ミ○農○事○ニ○服○セ○ン○ト○ヲ○獎○說○ス○ル○モ○ノ○ナ○リ○海○外○到○ル○處○ニ

大和民族が茫然タル温顔ヲ見ント冀望スルモノナリ海外到ル處ニ  
 商業的ノ新日本ヲ創造セントヲ希願スルモノナリ兼併主義ヲ擴張ス  
 ルト商業ヲ保護スルト孰レ植民政略ヲ主張スルト商業的ノ新日本ヲ  
 創造スルト孰レ新植民地ニ軍團ヲ配置スルト商館ヲ建設スルト孰レ  
 新植民地ニ武庫ヲ建設スルト商庫ヲ建設スルト孰レイムベリヤリズ  
 ムトセルブスフェルツァイデングト孰レヲテハ民族ハ植民地トサクソ  
 ン民族ハ植民地ト孰レモノボリトトコンモンツトナルト孰レテラ  
 ンテトシヨントアロツタド、フアトミンクト孰レ南亞米利加ト濠太利ト  
 孰レ世ノ壯士ヨ、旅館ハ二層樓ニ在リテ徒ニ空々タル妄想ヲ抱キ欲香  
 支那四百州ハ勺ヲ誦ンゼズシテ、請フ徐ニ圖ル處アレヨ漫ニ空中ニ  
 城樓ヲ築ク、莫レ漫ニ國姓爺ヲ學ブ、莫レ漫ニ山田長政ヲ學ブ、莫  
 レ海外到ル處ニ商業的ノ新日本ヲ創造スルコソ、汝ガ今日ノ急務ナレ、

汝ガ今日ノ急務ナレ。

○明治十九年九月十五日布哇嶋甲哇客舍書感。

流落天涯歲月遷敢無一事對前賢、漫言激骨從佗毀、自咲庸才待世憐、瘴霧  
 癘煙窮北路、陸風蠻雨極南船、可堪萬里檀山下、徒過人生廿四年、自註、漢人  
 檀山、又註、此日實當予第二  
 十四回誕辰、第七第八故及。

○著者云フ、丹峨羅亞神靈夢物語(サモア事件)ハ予ガ客年八月十五日熱  
 帶海上筑波艦内ニ於テ屬稿シタルモノニシテ、歸朝後本年二月再ヒ  
 校正補叙セシモノニ係ル然ルニ本年二月發兌ノ英國「ナイオン」テ  
 ンズ、センチュニリ「雜誌」第百八號ヲ閱讀シタルニ、會マ「シリ、キンロック」  
 ク、ク、氏ガ「サモア」論ヲ掲載セリ、予コソテ抄譯シテ此處ニ附記セ  
 ントセシガ、前後太ダ交雜シテ讀者ノ腦裡ヲ紊亂センコトヲ恐レ、竟ニ

コレヲ中止シタリ。讀者請フ該雜誌ヲ閱ミシテ「サモア」最近ノ出來事ト「マリエトア」王ノ「サヅンイ」嶋ニ出奔シタル顛末ト「ヴェーベル」氏ガ復タ獨逸國旗ヲ「サモア」政廳ノ屋上ニ植テタルノ始終ヲ詳知セヨ。

南洋時事終

明治二十年三月十四日版權免許

同年四月出版

定價金五十五錢

著者兼出版人

愛知縣士族

志賀重昂

東京本郷區眞砂町三十二番地寄留

大坂府士族

出版人 小柳津要人

東京本郷區森川町一番地寄留

發兌

丸善商社書店

東京日本橋通三丁目

肆 書 捌 賣

東京銀座四丁目

博 聞 社

同 神田表神保町

中 西 屋 邦 太

同 南傳馬町

叢 書 閣

京都河原町通二條下ル

大 黑 屋 書 店

大坂備後町四丁目

梅 原 龜 七

同 北久寶寺町四丁目

丸 屋 書 店

名古屋京町一丁目

村 松 五 郎

加賀金澤片町

益 智 館

安藝廣島横町

松 村 善 助

肥前長崎引地町

鶴 野 常 藏

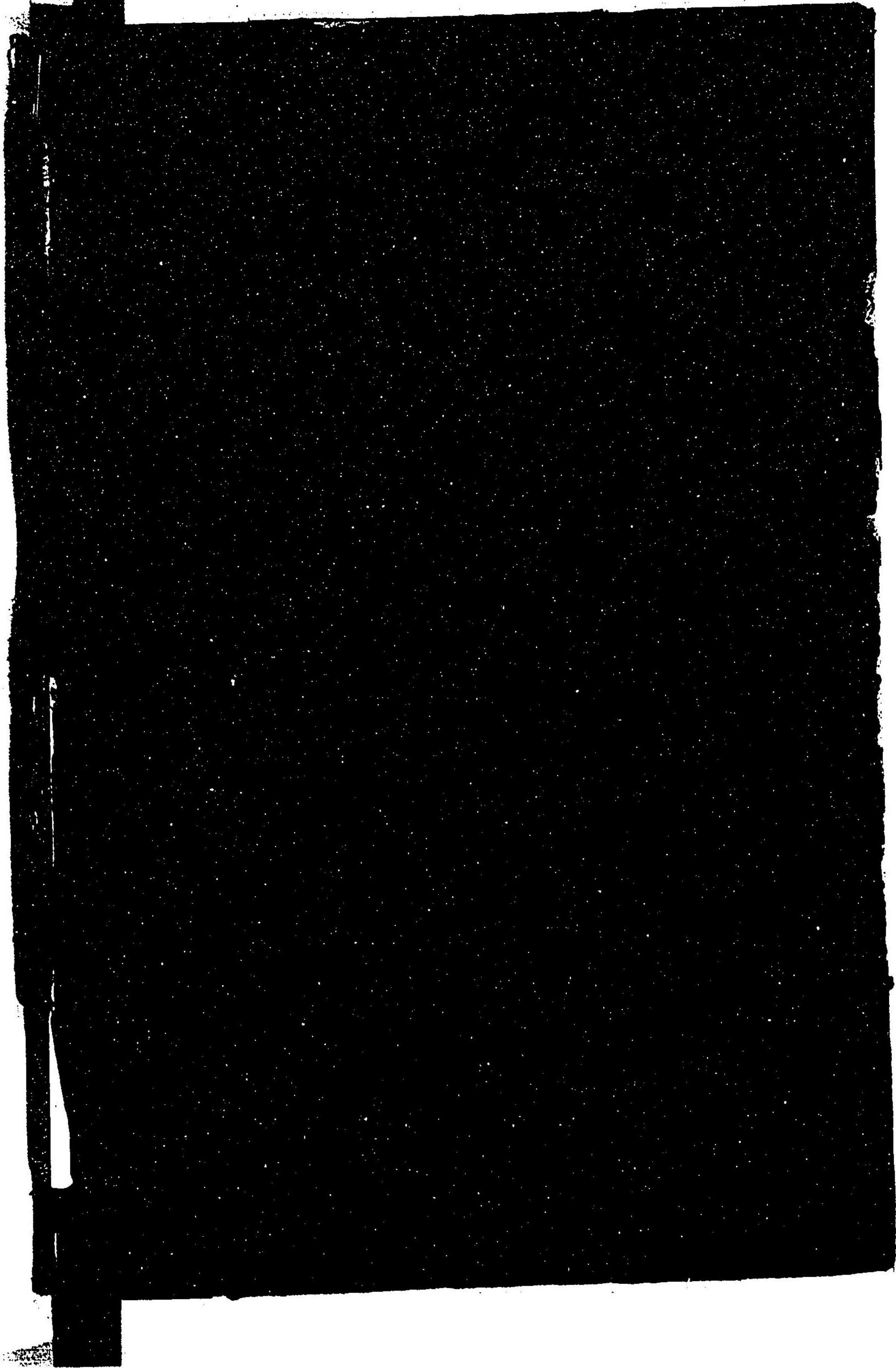
神戸相生橋際

熊 谷 幸 介

横濱辨天通四丁目

丸 屋 書 店

33  
137





33

137

026779-000-4

33-137

南洋時事

志賀 重昂 / 著

M20

ADD-0480

